



短歌

【岩瀬短歌会】

レトロ家の若い二人に子が生まれ青蚊帳
に換えてエアコンが付く 瀧田勇

本堂の薬師如来に頭を垂れて秋の祭事の
成功願ふ 小林美瑛子

霜月にたふれし義姉は水無月の風を追ふ
ごと病みて逝きたり 広澤日出子

トッキョキヤキョ、トッキョキヤキョキヤ
キョと声高に連れを探るかホトトギス鳴く 鈴木英雄

桔梗のあいいうる開く梅雨晴の空へわが鬱
さらりと捨てる 渡辺しな子

突然に病を得たる連れ合いに命の尊さあ
らためて知る 仁平千代

ドクダミの十字の花に手を合はす星野富
弘の三回忌今日 浜野和操

うぐひすの鳴くこゑまねて口笛を吹けば
また鳴く春の竹むら 瀧井幸子

弟よ歳の離れし君なれば我より先に逝く
は赦さじ 川崎邦子

天気図の日本列島真っ赤にて四季の風情
の無き国となる 久保悦子

音たてて青田を飛び立ち見るうちに点と
なりたり五羽の白鷺 大久保富美

高温の続く梅雨の日降り出しし小雨に
ほっと一息をつく 雨谷友子

雷鳴に閉じ込められて車から出られず自
然の威力を知りぬ 大関登志子

朝顔の花にさそわれ早起きす真紅と白の
斑入り数えて 泉三郎

末期の水飲みて逝きたる愛猫の体毛かた
みに少し切りおく 兒玉廣子

【一般投稿】

五所神社かつたてまつりと花火の音が行
く夏さみし秋が来る 青木勲

病棟の窓見下ろせば人の波ライトレール
の始発の駅に 袖山千鶴子

俳句

【茂山俳句会】※兼題「残暑」「鳥瓜の花」

「空蟬」ほか当季雑詠

撫子を千切りてにつこり女の子 酒寄誠

本棚に並ぶ辞典や灯火の秋 金子弘毅

耿耿と日の照り付ける終戦日

ふるさとの縁で交わすや冷し酒 海老沢幸子

空蟬に何も見えない目の二つ 渡部千恵子

被災地に追討ちかける残暑かな

宮本立男

大櫓伐つて真面な大西日 植竹ふみ

鳥瓜の花の触手や闇掴む 海老沢静夫

出穂ふつつ豊なる秋の兆 君島真理子

【一般投稿】

日だまりに赤きトマトの息遣い 長堀芳江

あれた庭きままに咲くや百合数多 入山比呂子

汗光る涙も一緒子等元氣 佐都志

蝉たちも我等と同じ中休み トミコ

妻と行く田の道暮れて虫の声 友常小蝶

あさじたくあきさばや 朝支度秋鯖焼けば猫起きし 小林衛子

白鷺やしなやかに舞う田んぼ道 浅賀順子

俚謡

【さくら俚謡会】

下ろし大根鯉節かけて美しい新米福の神 山もみじ

無病息災祈った神に嫁の世話まで頼む母 花野しづれ

新聞短歌の批評を読めば親しき選者のこころ知る みーちゃん

観光誘客スタートランプ名所数名の桜川 田哲人



スミハツの技術が
未来の交通インフラと
産業機械を支えています



未来に誇れる仕事を
一緒にしませんか？

2028卒の方は、
マイナビ2028から▼

中途採用ご希望の方は、お電話
またはホームページより▼


